

# 令和5年度 後期 学校自己評価のお知らせ

保護者の皆様へ

これは、後期に行った「学校自己評価」の結果です。学校自己評価とは、教職員自身が、学校教育目標の達成状況や教育活動の実施状況を評価するものです。その際、評価の客観性を増すために、「児童アンケート」や「保護者アンケート」の結果も参考にします。「教職員の自己評価」と「児童アンケート」そして「保護者アンケート」の結果と考察を掲載しています。これらの評価の結果をふまえて、学校改善に向けた今後の教育活動を進めていきます。

お時間があるときによくお読みいただき、本校の教育活動に対して御理解いただきますとともに、今後も御協力を賜りますようよろしくお願いいたします。

糸島市立前原小学校

校長 石硯 昭雄



糸島市立前原小学校

【評価方法】

4段階 4:よくできている 3:だいたいできている 2:できていないときの方が多い 1:できていない

【本校の教育目標】

まごころで学び、えがおでふれあい、ねばりづよくがんばるこどもの育成

【本年度の重点目標】

自らのよさを発揮し生き方を豊かにすることの育成 「自己実現力」の育成

※ 前期と後期の変容が1.00ポイント未満≡、1ポイント以上↑↓

		質問項目		児童		教員	
まごころで学ぶ子ども	①	「めあて」を自分でついたり、見通しをもって考えたりすることができましたか。	前	3.31	≡	2.78	↑
			後	3.28		3.00	
	②	先生の力をかりずに、自分たちだけで15分以上話し合うことができましたか。	前	3.09	≡	2.11	↑
			後	3.04		2.47	
	③	自分の考えを書いて、学習をふり返ることができましたか。	前	3.36	≡	2.30	≡
		後	3.34		2.25		
④	ミライシードで、苦手(にがて)な問題に取り組んだり、新しい問題に挑戦したりできましたか。	前	3.34	↓	2.84	≡	
		後	3.19		2.81		
⑤	タブレットを使って意見を出し合ったり、タブレットで自分の考えをまとめたりすることができましたか。	前	2.89	↑	2.00	↑	
		後	3.05		2.41		
えがおでふれあう子ども	⑥	友だちのよさを進んで見つけようとしていましたか。	前	3.25	=	2.70	↑
			後	3.25		3.13	
	⑦	命の大切さを考えたり、思いやりのある行動をしたりすることができましたか。	前	3.56	≡	3.00	≡
			後	3.50		3.03	
	⑧	学校のきまりを守ることができましたか。(名ふだ・遊び場・時間など)	前	3.44	≡	2.86	≡
		後	3.37		2.94		
⑨	自分から進んであいさつをすることができましたか。	前	3.44	≡	3.11	≡	
		後	3.37		3.19		
⑩	学校や学年・学級をよくするための話し合い活動で進んで考えを出せましたか。	前	3.18	≡	2.35	↑	
		後	3.14		2.66		
ねばりづよくがんばる子ども	⑪	時間いっぱい、すみずみまでそうじができましたか。	前	3.61	=	2.95	↑
			後	3.61		3.19	
	⑫	給食(きゅうしょく)の後(あと)かたづけをきちんとすることができましたか。	前	3.75	≡	3.22	≡
			後	3.7		3.28	
⑬	めあてをもって体を動かすことができましたか。(朝のソッケリ体そう、短なわけんてい など)	前	3.46	≡	2.81	↑	
		後	3.45		2.97		
⑭	「ゆめかなえノート」で、自分の成長(せいちょう)やがんばりをふり返ることができましたか。	前	3.43	↓	2.86	↑	
		後	3.30		3.06		

## 【全体考察】

- 前期同様、どの項目についても、教員の評価に比べて児童の評価の方が高くなっています。ただ、児童評価の平均は前期3.37→3.33と、0.04ポイント下がりました。一方、教員評価の平均は前期2.71→後期2.89と、0.18ポイント上がりました。ここから、教員は多くの項目で児童の成長を感じているものの、児童は自身の成長を十分に感じる事ができていないことが分かります。これは、児童と学習のゴール(めあて)を共有し、ゴールまでの過程で「がんばっている」「できるようになっている」と自覚させること、活動後に「できるようになった」「がんばってよかった」と感じさせることが十分ではなかったためと考えます。

## 【まごころで学ぶ子ども】

- 児童も教員も⑤「タブレットを使って意見を出し合ったりタブレットで自分の考えをまとめたりすることができた」の評価が上がりました。友達に自分の考えを伝えたり学級全体の意見の傾向を知ったりと、多くの教科・領域でタブレットを使った協働的な学習をしています。児童も教員も評価が上がっていることは、そのような学びが表現力や思考力の高まりに効果的だったことを示していると考えます。一方、④「ミライシードの活用」については、児童の評価は下がっています。ミライシードは、学年や教科、単元等をこえて問題を選び、取り組むことができます。つまり、自分の課題(苦手なところ、もっと難しい問題に挑戦したいところ等)に応じた学習が可能になります。今後、授業だけでなく家庭学習においても活用を進めていき、児童が個々に自分の力を伸ばしていくことができるようにします。
- ②「先生の力を借りずに、自分たちだけで15分以上話し合うことができたか」については、教員の評価は上がりました。本年度、本校では「相対話」を取り入れた授業研究を行いました。どの教員も研究授業を行い、児童が対話することで考えを深める姿とそのための手立てを検証してきました。教員はその成果を感じており評価が高くなったと考えます。児童の評価が高まらなかったのは、指導においてゴール(めあて)の共有と評価が十分ではなかったためと考えます。

## 【えがおでふれあう子ども】

- ⑥「友達のよさを進んで見つけようと思いましたか」は、児童評価と教員評価が最も近い項目です。多くの学級が、帰りの会で友達のよいところを発表したり、授業のふり返りで友達のがんばりや友達の考えのよさを述べたりしています。また、異学年交流や学級活動においても友達のよさをふり返る場があります。このような活動により、友達のよさをを見つける態度が身につけると考えます。相手の立場を考え関わる力につなぎ、支持的風土の醸成を目指していきます。
- ⑧「学校のきまりを守ることができましたか」⑨「自分から進んであいさつできましたか」については、児童評価は下がっています。児童は、廊下の通り方やあいさつの仕方について「もっとよりよくできる」「現状では満足できない」と感じているのではないかと考えます。目指す姿をさらに具体的に示し、児童が「これでよいのだ」と分かるようにする必要があります。
- ⑩「学校や学年・学級をよりよくするための話し合い活動で進んで考えを出せましたか」については、教員は評価がとても高くなったのに対して児童は若干低くなりました。これは、学級活動で話し合い活動は設定しているものの、学校生活をよりよくする議題の選定や個々に意見を述べる手立てが十分ではなかったためと考えます。定期的・計画的に、集団を見つめ、集団の一員として集団をよりよくするための話し合いを行っていきます。

## 【ねばりづよくがんばる子ども】

- ⑬「めあてをもって体を動かすことができましたか」については、児童も教員も評価が高かったです。大縄大会や短縄検定など、体育委員会が定期的に運動の取組を企画してくれます。大縄大会では、大会に向けて学級で毎日練習をします。体力の向上だけでなく、学級のまとまりも高める取り組みとなっています。短縄検定は、個人で挑戦します。各自がより高度な技の習得に向けて寒い日も毎日練習をしていました。このような取組で運動に親しむことができました。
- ⑭『「ゆめかなえノート」で、自分の成長やがんばりをふり返ることができましたか』については、児童の評価が低くなりました。目標の設定に系統性がなく、その時々目標を決めていることが多いので、成果の自覚につながりにくいのではないかと考えます。来年度は、1年を見通した大きな目標設定とそれにつながる小さな目標設定を促し、児童ががんばっていることが大きな目標の達成につながることを意識させて充実感につなげたいと思います。

## 保護者評価（アンケート）の結果について

1. 実施期間 令和5年12月4日（月） ～ 令和5年12月8日（金）  
 2. 配布数 582  
 3. 回答数 271 47 %  
 4. 評価 4段階（4：よくできている 3：だいたいできている 2：できていないときの方が多い 1：できていない）

※ 前期と後期の変容が1.00ポイント未満≒、1ポイント以上↑↓

※ 前期と後期の変容が2%以下≒、3%以上↑↓

項目	番号	お子様の姿・学校の姿	結果		評価内訳（%）				
					4	3	2	1	
授業	①	子供たちは、よく発表をしたり、自分の考えを書いたりすることができている（意欲的に、学習に参加している）。	前	3.54	≒	57	41	1.3	0.6
			後	3.53		55	43	1.4	0.5
	②	子供たち一人一人がよくわかる、できるために、授業が工夫されている。	前	3.44	≒	47	52	1	0.3
			後	3.49		51	47	1.9	0
	③	子供たちの教室は、整然としていて、学習に適した環境になっている。	前	3.60	↓	61	38	1	0
			後	3.44		50	44	3.8	1.4
ゆめかなえ学習	④ 「ゆめかなえ学習(家庭学習)」の宿題が「よい」と感じる点	前期(%)			後期(%)				
		ア 子どもが自分で取り組める	23	→	20	↓			
		イ 勉強に楽しく取り組んでいる	1	→	1	=			
		ウ 将来に必要な学力が身に付く	3	→	2	≒			
		エ 自分で決めたり、実行できたりする力が身に付く	36	→	39	↑			
		オ 家庭学習の習慣が身に付く	17	→	18	≒			
		カ 子どもの興味のあることやよさを引き出す	8	→	6	≒			
		キ よい点は特にない	12	→	13	≒			
		ク その他	1	→	1				
	⑤ 「ゆめかなえ学習(家庭学習)」の宿題が「よくない」と感じる点	前期(%)			後期(%)				
		ア 何をするか自分で決められない	14	→	6	↓			
		イ 時間がかかってしまい、大変そう	10	→	11	≒			
		ウ 必要な学力が身に付かないと思う	3	→	5	≒			
		エ 調べるための本や資料がない	4	→	2	≒			
		オ 家庭学習の習慣が身に付かない	0	→	2	≒			
カ 子どもの興味やよさが生かせない		2	→	3	≒				
キ よくない点は特にない		61	→	63	≒				
ク その他	5	→	9						
宿題	⑥ お子さんの宿題の内容は、お子さんにちょうどよい。	前	3.88	≒	93	2	5	0	
		後	3.81		89	3	8	0	
	⑦ お子さんの宿題の量は、お子さんにちょうどよい。	前	3.77	≒	85	7	8	0	
		後	3.72		82	9	9	0	
生活	⑧ 子供たちは、友達のよいところによく気づいている。	前	3.11	↑	19	72	8	0	
		後	3.22		22	77	0	0	
	⑨ 子供たちは、学校で掃除の取組をしているので、家庭でも身の回りを片付けたたり、進んで掃除をしたりすることができている。	前	2.38	≒	6	41	39	14	
		後	2.37		6	38	45	11	
自己実現力	⑩ 子供たちは、学習や生活などいろいろな場面で目標を決めることができている。	前	2.82	≒	11	63	24	2	
		後	2.81		9	65	23	3	
	⑪ 子供たちは、自分が決めた目標に向かって最後まで諦めずに取り組むことができている。	前	2.96	≒	18	63	17	2	
		後	2.87		10	70	17	3	
学校からの情報	⑫ 各学級・学年から通信を発行したり、連絡帳でお伝えしたりしているので、子供たちの学校での学習や生活の様子がよくわかる。	前	3.12	≒	26	61	12	1	
		後	3.03		20	65	15	1	
	⑬ 学校は、学校の方針や取組の予定などを保護者にわかるように発信できている。	前	3.17	≒	26	66	8	0	
		後	3.08		17	74	9	0	

## 保護者評価考察

### 【授業について】

- ②「子どもたち一人ひとりがよく分かる、できるために、授業が工夫されている」については、評価が高くなりました。児童の学ぶ姿と教員の手立てについて評価をしていただき、嬉しく思います。本年度は特に、全学級が授業の中で「対話」を行い、全ての児童が考えたことを話す時間をもっています。“自分が話す”“自分が聞く”、対話後に“自分の考えを見直す”ことで、思考力・表現力・判断力だけでなく、主体的に学ぶ態度も育てています。
- ③「子ども達の教室は整然としていて、学習に適した環境になっている」については、評価が下がりました。教室は児童が安心して学習できる場所、安全に過ごすことができる場所でなければなりません。この評価を真摯に受け止め、棚の中の物を整然と並べることや棚の上に不要な物を置かないことを徹底します。その他、教室の整理整頓、掲示物の状況、教室での言葉づかい等については、児童が毎日目にするもの耳にするものであり、児童の人権感覚や生活意識に影響するものと考えます。児童が安心して学校生活を送ることができるよう、学校全体で意識して整えていきます。

### 【ゆめかなえ学習について】

- 多くの回答をありがとうございました。④「ゆめかなえ学習の宿題がよいと感じる点」については、「自分で決めたり実行できたりする」ところに、よさを感じてくださっている方が多かったです。「学力が身に付く」の項目が低いことは、前期に引き続き課題です。「ゆめかなえ学習」は、自分の学習課題に応じた宿題を行うことで学力向上につながる家庭学習を目指しています。今後は、授業のふり返りに「できるようになったこと」「もっとやってみたいこと」を書いたり、授業で単元途中や単元末にタブレットを活用した個別課題に取り組む時間を設定したりすることで、「ゆめかなえ学習」につなぎ、学力が身に付くものにしていきたいと思えます。

### 【宿題について】

- ⑥「宿題の内容」⑦「宿題の量」については、ちょうどよいとの回答が多いですが、よくないという回答も一部ありました。家庭学習は、各家庭でお子様と保護者で話し合われて内容を決めていただくことが理想です。しかし、全てを御家庭にお任せすると学習材の準備等において差ができることが考えられるため、学校では宿題として基本的なものの最低限のものを吟味して課しております。量が少なくお感じになる場合は、タブレットの活用や御家庭で準備したものに取り組ませる、読書の時間に充てる等、御家庭の指導のもとで児童が自主的に取り組めることが望ましいと考えます。

### 【生活】

- ⑧「子ども達は友達の良いところによく気づいている」については、評価が上がりました。同項目は、児童評価も教師評価も高くなっています。児童が友達とあたたかな関係を築きながら学校生活を送ることができていることを嬉しく思います。御家庭でも、友達の良いところをお子さんが話したときには「友達の良いところを見つけることができるあなたの心がすてきだね」とほめてくださればと思います。

### 【自己実現力】

- ⑩「子ども達は学校や生活などいろいろな場面で目標を決めることができている」と⑪「子ども達は自分が決めた目標に向かって最後まであきらめずに取り組むことができている」を比べると、⑪「最後まであきらめない」の評価が高かったです。このことから、保護者の皆様は児童が「ゆめかなえノート」の目標に向かってがんばっていることを、励まし、評価してくださっていることが分かりました。一方、目標設定では、何を目標にすればよいのか児童が困っていることを目の当たりにされているのではないかと思います。来年度の「ゆめかなえノート」では、1年の目標とその目標達成のための小さな目標を設定することで、児童が目標設定をやすく、ふり返ったときに達成感や有用感を感じ取ることができるようにします。

### 【学校からの情報】

- ⑫「各学級・学年からの情報」、⑬「学校からの情報」については、評価が低くなりました。自由記述では、電子でのお知らせへの御要望がありました。来年度、電子メールシステムが変更されます（糸島市内小中学校）。次の電子メールシステムで実施できるかどうか検討を進めます。